

せんじもん

千字文の手本 その不思議

4字句を3字だけにして習字の勉強

てんちげんおう
 天地玄黄
 うちゅうこうこう
 宇宙洪荒
 じつげつえいしよく
 日月盈昃
 しんしゅうれつちよう
 辰宿列張

もう何年か前のことになる。2班の石田彰子さんが、亡くなった叔母のところへ、こういう習字の手本があったと、見せてくれた。千字文の習字の手本（楷書と隸書）である。最初に「天地玄」、2枚目に「黄宇宙」と3字が続く。しかし、千字文は、4字句の韻文のはず、なぜ3字でちよんぎってしまうのか。

千字文は久しく中国の児童の文字を学ぶ教科書だったという。違った文字千字の集まり。梁の周興嗣が武帝（在位五〇二―五四九）の命令で書いた。一晩で書き上げ、周さんは頭が真っ白になったが、めきめき立身出世した。

忠実に1ページに4字は多い、3字程度でいいだろう。4字の韻文の勉強とは別問題である。そう考えれば一件落着である。児童の習字である。

文選読みとその意味を

ここまで千字文に迷い込んできたのだから、その読み方、文選読（もんぜんよみ）のお勉強である。冒頭の8字。

てんちのあめつちは くえんくわうとくろくきなり うちゅうのおぞらは こうくわうとおほいにおほきなり

天の色は黒く、地の色は黄色であり、空間や時間は広大で、茫漠としている。

「古事記」の「天地の初め」の「国雅（わか）く浮ける脂（あぶら）の如し」を思い出した。

ついでに次の8字の意味をのぞく。
 太陽や月は、満ちたり欠けたりし、
 星座は、弦を強く張ったようにつらなっている。

千字文の習字手本 天地35センチ



参考 岩波文庫「千字文」